

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100244		
法人名	医療法人社団 輔仁会		
事業所名	介護サービスセンター ゆいまーる松川グループホーム		
所在地	那覇市松川301番地		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100244&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレクト西205		
訪問調査日	平成23年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・広い空間や、長い廊下を利用した歩行訓練が楽しく行なえるよう、様々な工夫を凝らしている。 ・閉じこもりがないよう、居室へのテレビやポータブルの設置を控え、共有スペースで過ごして頂けるよう、又他者との交流がもてるような支援を行なっている。 ・睡眠薬に頼らず、生活リズムを整える事で、夜間の良眠へつなげられるような支援を行なっている。 ・Wish Dayを設け、思いや希望を聞き叶える取り組みを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域の一員として自治会に加入し、地域行事には事業所の敷地提供や医療ボランティアとして参加し、清掃活動にも取り組んでいる。日常的に散歩や買い物を通して住民とふれ合い、地域の子供たちや各種ボランティアの訪問を受け交流し、事業所の災害対策においても地域住民と協力関係を築いている。管理者と職員は、「思いや心を尽くす」理念に基づき利用者との絆を大切に、家族や関係者が訪問しやすい環境作りや利用者一人ひとりの「やりたい事、行きたい場所」の把握に努め、思いを叶える「Wish Day」を設け実践し、生きがい支援に繋げている。また、今年から毎月モニタリングを実施し、状況に応じた利用者本位の介護計画作成に取り組んでいる。運営推進会議にも全職員が参加し、事業所のサービスの質向上に向け熱心に取り組んでいる。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年2月15日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新職へは、入職の際のオリエンテーションにて時間を掛け理念について説明を行っている。職員間ではこれまで通り、朝のミーティングや定期のミーティングに於いて理念に基づいたケアができていのかどうか話し合いを行っている。	理念は、管理者と職員で話し合い、利用者の地域での暮らしを支援するために「心・精神・思い・力を尽くす」事を掲げ、事業所内に掲示している。職員は、入職時の研修や申し送り、定例会等で理念を共有し、利用者一人ひとりの思いの把握に努め、心を尽くすケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・朝市の開催 ・自治会へ加入。看板が施設敷地内設置されている。年2回の清掃への参加や、祭りへの参加など、相互協力を常に行っている。 ・買い物、地域の商店で行ったり、定期的に保育園児との交流会を行ったりしている。	自治会に加入し、地域の清掃活動やイベント等に参加して医療ボランティアをする等、地域と交流している。利用者は散歩や買い物を通して住民と挨拶を交わす等、また、地域の保育園児や踊り、三線ボランティア等の訪問を受け交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで同様、同法人内で月1回行っている家族を対象とした勉強会のチラシの配布を行っている。又、改まった勉強会などとは違う方法、例えば、外部からホームに来て頂き直接入居者の皆さんと交流する中で認知症を理解してもらえるような取り組みは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会に於いて報告を行なっている。	会議は、利用者、家族、地域代表、行政担当と全職員が参加し、3か月毎に開催している。利用者の状況、事業所の活動、ヒヤリハットや事故、外部評価の結果等を報告し協議している。ヒヤリハットが夜間帯に多発している事に関し、対応策を話し合いケアに繋げている。	運営推進会議は、規程省令で2か月に1回以上の開催となっており、年6回開催に向けた取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に、市職員にも参加してもらっている。	行政担当者には、運営推進会議において事業所の状況を報告し、意見や助言が得られている。利用者と一緒に役所を訪問し、運営推進会議の開催通知を手渡ししながら状況を伝えたり、認定の変更や更新時に手続き等の相談や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年同様、マニュアルを利用しながら、ミーティングにおいて、独自の勉強会を行い、日々のケアの中で確認を行うかたちを継続している。	拘束をしないケアについては、マニュアルを整備し、定例会で日々のケアを確認したり、講師を招き勉強会を開催する等、全職員が理解を深めている。利用開始時に、拘束の禁止とリスクについて家族に説明している。出入口のエレベーターは、施錠せず自由に利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングにおいて、課題を決め勉強会を開くことがあり、その際に虐待防止関連法を課題とし、勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用はないが、必要な場合は、同法人内の権利擁護要員との連携を取れるような体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書を読みながら、一つ一つの項目に対し、十分な説明を行い、納得して頂いた上で契約を行っている。解約時も同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加してもらっている。今年度は家族会は行っていないが、行事の際に来て頂き、家族間の交流を通して意見を交わせるような機会は設けている。挙げて頂いた意見や要望はなるべく業務に反映させるようにしている。	利用者の要望は、日々のケアを通しての訴えや行動、ドライブ等で自然に口にする言葉等から把握している。家族からは、行事や日常の訪問時に聞いている。利用者からの「知人、友人に会いたい」との要望や家族からの「映画鑑賞」等の希望にも個別対応し、外出支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは月1回の定例と、不定期で開く体制は変わらず、そこでの意見や要望の反映はできている。	管理者は、定例会や個人面談等で職員の意見を聞いている。職員から「水分チェック表」や「シーツ交換表」の記録方法や個々の思いを叶える「Wish day」が提案され、記録の効率化や生きがい支援に繋がっている。職員の専門性や利用者に配慮して法人内の異動は行っていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価の実施。有資格者の処遇改善を検討し、契約から正職への移行も行い、やりがいをもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や、その他の研修へ参加できるような機会の確保（勤務調整等）を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム独自ではなく、事業所全体として、交流やネットワークづくりを行っていて、情報交換の場を設けたり、施設見学を行ったりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談申し込みを受け、何回か自宅の訪問を経て、生活歴等を、雑談を交えながら聞きだせるような相談を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少なくとも2回以上の面談を行う。1度に全てを聞き出そうとせず、数回の面談によって困っていることや、要望を話して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅への訪問の際や、見学を兼ねたホームでの相談の際には、いずれも話しやすい雰囲気作りに努め、何を必要としているのか、多角的視野での見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食卓で摂ったり、一緒にのベッドで添い寝をしたり、いつでも話のできる距離を保つ事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族構成を把握し、入居者のみの話題にとどまらず、時には子育ての事や、趣味の事など共通の話題で雑談をしたりして身近に感じて頂けるようにしている。又、行事の際には参加はもとより、準備も家族にも手伝ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から、友人や、近所の方が気軽に訪ねて来れるような雰囲気作りを心がけている。又、家族の話や生活歴からリサーチした情報をもとに、昔なじみの方に訪問して頂いたり、逆に、会いにいったりする事もある。	利用者の馴染みの関係性は、本人や家族から把握及び地域の人から情報を得ている。利用者の以前の職場や知人を訪ねたり、友人を招いたり関係継続の支援をしている。馴染みの地域散策等を希望する利用者には「Wish day」を活用し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビを置かず、部屋にこもる事がないような支援を行っている。又、利用者間の関係にも配慮し、かつ偏りのないよう、テーブルやソファの配置換えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は退去者はないが、これまで同様な支援は行っていくように職員間で話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、表出する感情や言葉などからの希望や意向の把握に努めている。今年度は、把握するだけでなく、希望を叶えるという取り組みまで行っている。	利用者の意向は、日々の関わりの中で、会話や表情等から把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報や職員間で話し合い、思いを引き出すよう工夫しており、家族から「餃子作りが得意」との情報を得て調理に取り組んだ事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスの際やケアに行き詰った場合は、必ず入居前のアセスメント表を見たり、家族が来られた場合に、再度質問をしたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方に関しては、それぞれのペースで過ごして頂いている。心身状態については記録する事で把握を行っている。又、一人ひとりの力の把握は日々の生活の中から見極めを行い、できることの模索は常に行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一月に1回計画作成担当者や、担当職員でモニタリングを行っている。家族へは、計画書の変更があった場合に確認して頂き、不十分だと思われる所は、話し合い了承を得るまで修正を行い、現状に即した計画書を皆で作成できるように努めている。	担当者会議には、本人や家族、担当職員も参加し、意向を確認して介護計画を作成している。「外食や行きつけの市場で買物したい」との利用者の意向を計画に反映させている。今年から毎月のモニタリングを実施し、利用者の状態に応じた計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は、個別に午前、午後、夜間と記録をし、気付いた事に関しては、申し送り帳に記録し、朝と夕の申し送りの際に読み上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に取り組むまでには至っていないが、入院加療中の利用者で、退院後の受け入れに対して、これまでの方針では退所の対象であったが、主治医や、医療機関への協力体勢を強化する事で、再受け入れができるように柔軟な支援の為に努力を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問散髪、地域の方による読み聞かせ、さき織り教室、行事の際にご協力頂いたり、主にインフォーマルの活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居者9名が、同敷地内にあるクリニックの医師を主治医とし、定期受診や、定期健康診断、緊急時の対応をもらって、受診の際は、バイタルのデータや変化についての報告を口頭、又紙面にて行い、常に連携を取りながら入居者の健康管理を一緒に行っている。	利用者や家族と話し合い、全員が同敷地内にあるクリニックをかかりつけ医とし、日頃の健康相談や定期受診、急変時の対応等連携している。受診時は職員も家族に同行し情報提供している。眼科等の他科受診は、家族対応としているが、困難な場合は代行し電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、緊急時は他部署の看護師が対応できるように、日頃から情報の提供を行い、健康管理においての連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も馴染みの関係が維持できるように、まめに面会を行ったり、食事の介助のお手伝いをしたりしている。入院中は、医師や看護師から様子を聞いたり、退院時のカンファレンスに家族と共に同席したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は無いが、必要な場合は、同法人内の病院や施設との連携体制はできている。	重度化や終末期に向けては、本人や家族と早期から話し合い、医療行為が必要になった場合は、他機関へ移行する方針を説明し共有している。職員は事業所で出来る限りのケアについて、家族を交えて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による救急救命の研修会を定期的に行っている。又、ひやりはっとの報告書を作成する際にリスクマネジメント委員のメンバーにも協力してもらい、再発防止の為に対策について検討会を開くなどしてしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜それぞれを想定しての訓練を行っている。訓練の際は、事業所内の相談センターが行っている体操教室に通われている地域の方にもご協力頂いている。	消防署指導の下、防災訓練が行われている。夜間を想定した自主訓練には、職員や利用者と共に地域のボランティアが参加している。携帯ラジオ等の備品や緊急通報装置、スプリンクラー等の防災設備も整い、食糧等は法人で備蓄している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの中で出てくる言葉使いに対して、職員間で注意し合う等して、常に意識するように心掛けている。	職員は、利用者の尊厳やプライバシーを意識したケアに向けて、敬語等で接するよう心がけているが、不穏時等必要に応じ、本人の落ち着いた名称で呼びかける事もある。利用者への対応や声がけが気になる時は、職員間で注意し合い改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から、希望や思いを聞きだせるような話しかけを意識し行っている。又個人の価値観に偏見を持ち、自己決定の障害がないよう、ミーティングの項目挙げ、話し合えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般を、その人の主体性や自主性によって決定できるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える事で生活にメリハリがつくように、まめな支援を行っている。又、浴室に化粧品を置き、いつでも自由に整容ができるような環境作りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握は、定期的な嗜好調査や、職員が食事を一緒にとる事で、ある程度できている。食事は同法人内の老健施設からで、調理はほとんど行っていないが、配膳準備、食後の片付けも入居者と職員で一緒に行っている。	食事は、三食とも法人内の施設から配食され、管理栄養士による糖尿病食や低脂肪食等の献立もある。利用者は、職員と一緒に盛り付けや片付け等を行い、会話をしながら食事を楽しんでいる。利用者と職員が献立を考え3か月毎の調理実習やミニ喫茶店を開き地域の方からも好評である。	食事を提供するだけでなく事業所内での食事作りを通して利用者が主体的に関わる機会を増やしていくことに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは毎回行っている。水分は好きなもので、飽きずに摂取できるように、バリエーションを変えている。又水分でむせたりする方には、とろみ剤を使用して、安心して摂ってもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯は、洗浄剤につけるよう促している。又、義歯の状態の変化等は都度家族に報告し、歯科受診をすすめたり、時には訪問での受診の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック用のボードを各トイレへ設置し、排泄のパターンを把握した上で、定期的な声かけを行ったり、日中は綿の下着の着用を勧めている。又基本的にはポータブルトイレの使用は行わず、トイレへの誘導で対応している。	排泄チェック表を活用し、利用者全員、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態に応じ、綿パンツやリハビリパンツを使用している。失敗時は、さりげなく声かけし、ウォシュレット等での洗浄や着替えを支援している。トイレはドアを開けても外から中が見えないよう設計されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎夕食時に寒天ゼリーを提供している。日中はなるべく動いてもらうように、1日2回の体操と、週3回の歩行訓練、屋内・外の散歩をプランに組み込んだり、動く機会を多くすることでの対応も行っている。それでも排便がない場合には、便秘薬の服用の管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂の支援は毎日行っていて、本人が入りたい時に入ってもらようにしている。入浴の拒否がある方に対しては、少なくとも週3回は入れるような促しを行っている。	利用者の好きな時間に、朝風呂や夕方、毎日でも入浴ができるよう支援している。浴槽も備わり冬場は、入浴剤を入れて楽しむ利用者もいる。また、利用者は全員女性のため、男性職員が介助をする時には、確認し了解を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間はそれぞれの生活習慣によって異なるので、その人に合わせた就寝時間に入室できるような支援を行っている。休息に関しても、食事時間にかち合うことがあっても、食事時間を少し遅らせたりして対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回薬局から出される説明書を保管している。入居者各々の担当職員で、薬のセッティングを行わない、担当は3月毎に変え、職員全体での入居者の服薬に関しての把握ができるようにしている。又、誤薬防止については、薬に名前、日付を明記し、与薬前にダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメントから、又日々の生活から、できることの見極めを行い、その力を発揮していただけるようなケアを心がけている。好きなことを行う事への制限はほとんどせず、本人の希望ならば、夜のドライブを行うなど気分転換になれるような支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最低でも週1回のドライブと、外気に触れる機会を作る目的で、施設内の畑の水撒きを行っている。生まれ育った地域へのドライブも行い、遠方へのドライブの際は、家族も参加してもらっている。	日常的に散歩や買い物に出かけたり、職員と一緒に事業所の花や野菜に水撒き等を行っている。浜下りや花見等季節の行事や新聞等で情報を得て、多方面へ出かけている。また、家族と連携し自宅での宿泊や元の職場を訪問する等個別支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面は基本的には家族管理でお願いしている。現金の所持をしている方が買い物をを行った場合は、買った物の把握を行い、時にはレシートを預かる等してトラブルのないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるような場所へ設置していて、いつでも使えるようにしている。遠方の家族へは、手紙やはがきを書いてもらい、一緒に投函まで行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に過ごしやすいように配慮はしている。季節感が味わえるように、一緒に生け花を飾ったり、行事に合わせてホーム内を飾ったりしている。	玄関ホールや居室入り口には、利用者と一緒に作った季節のものが飾られている。居間兼食堂は、体操等に使用でき、椅子やソファを配置し利用者が好きな場所で寛げるよう工夫している。浴室前には空調の整った整容室があり、鏡や化粧品等を備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには4台のソファを置き寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を広めにとっていて、お子さん家族が数人で来られても大丈夫なようにしている。家族の写真を飾ったり、自宅で使用していた家具を持ち込んだり、お線香をたかない条件での仏壇の持ち込みをされたりして、居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはベットとタンスが備え付けられ、家族の宿泊にも対応できるよう広い造りになっている。生け花を飾ったり、写真や絵を飾る等、居心地良く過ごせるよう支援している。利用者の思いを尊重し、仏壇の持ち込みも受け入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっていて、居室までの通路はくまなく手すりの設置を行い、一人でも部屋へ行き来できるように配慮している。トイレもリビングに一つと居室側に二つ設置している。		